

I

学部教育の理念と目標

- 学部教育の理念と目標
- 教育上のポリシー等

学部教育の理念と目標

工学部の教育理念と目標

工学部長 ● 辰 巳 浩

工学部は、「良心に基づいた社会的責任感を有し、時代に即応した判断力と、科学技術をもって社会の持続的発展に貢献する人材を育成すること」を教育理念として掲げています。また、この教育理念に基づき、「工学・技術に求められる豊かな創造性と実務に即した応用力を育成するために、十分な基礎学力に加えて深い専門の科学技術と、幅広い教養を修得させて調和のとれた人格の発達を促すこと」を教育の目標としています。

この学修ガイドには、皆さんが福岡大学工学部で学修を進めるうえで知っておかなければならない重要な事項が記載されています。学年ごよみ、年間カレンダー、事務室の窓口案内、履修登録や成績評価、進級（留年）に関する事項、学則・学科履修規程など、いずれもしっかりと理解しておく必要があることばかりです。4年間を通して必要となる履修の手引きですので必ず読んでください。

新学期の最初に、皆さんは履修する授業科目を各自 web 上で履修登録する必要があります。履修登録を行わないと、授業を受講することができません。この学修ガイドには履修登録の流れや注意事項が記載されています。それらをしっかりと理解し、ミスなく履修登録を行いましょう。各授業科目がどのような内容なのか、どのような目標を達成することを目指しているのか、成績評価はどのように行われるのかなどは、各授業科目のシラバスを見て確認してください。

また、福岡大学の教育の特色のひとつとして、「FU プラスアップ授業」があります。福岡大学では、前期・後期ともに15回の授業のうち、授業期間として14週を設定し、残り1回分は動画配信による遠隔授業で実施します。この遠隔授業のことを「FU プラスアップ授業」と称します。「FU プラスアップ授業」には、実施時期、内容により、「スタートアップ授業」と「中間フォローアップ授業」の2種類がありますが、どちらが実施されるかは科目によって異なります（多くの科目では「スタートアップ授業」を実施します）。「スタートアップ授業」は授業期間開始前に第1回目の授業を実施するもので、第1回目の授業内容に加え、授業の概要や進め方、評価方法などについて丁寧な説明が行われます。「スタートアップ授業」の受講を逃さないよう、十分に注意しましょう。

その他、この学修ガイドには大学院受験の飛び級制度や特待生制度、国際交流・海外留学支援などの情報も記載されています。こうした制度も積極的に活用することをお奨めします。

最後になりますが、大学4年間は皆さんの今後の人生に大きな影響を及ぼす重要な期間です。最低限卒業に必要な単位だけを取るのではなく、より多くのことを学び、豊かな人生に結び付けるよう心がけましょう。

教育上のポリシー等

学位（教育）プログラムとは

学位を授与するために編成された教育課程のことを指す。

工学部各学科の学位（教育）プログラムは以下のとおり。

学 科	学位（教育）プログラム
機械工学科	機械工学
電気工学科	電気工学
電子情報工学科	電子情報工学
化学システム工学科	化学システム工学
社会デザイン工学科	社会デザイン工学
建築学科	建築学

ディプロマ・ポリシー（DP）「学位授与の方針」とは

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるものをディプロマ・ポリシー（学位授与方針）という。

カリキュラム・ポリシー（CP）「教育課程編成・実施の方針」とは

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針をカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）という。

履修系統図（カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー）とは

カリキュラム・マップとは、授業科目と教育目標の関係を示した表であり、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、各科目が卒業するまでに身につける能力のどの項目と関連するのかを示す。

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の対応関係や履修・学修における道筋を示したものをカリキュラム・ツリーという。

共通教育科目のDP、CP、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについては、FUポータルに掲載しています。

【掲載場所】

FUポータル▶授業関連▶履修系統図（カリキュラム・ツリーおよびカリキュラム・マップ）

▶履修系統図（令和6年度入学生）▶共通教育

[工 学 部]

ディプロマ・ポリシー (DP)

工学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. 技術者として健全な倫理観を有する。
2. 工学・技術分野の基礎的専門知識を有し、関連する典型的な現象を理論的に説明でき、さらに計算機・専門器具を用いた測定や分析・製作ができる。
3. 他人と論理的に意見交換することができ、協調性を有する。
4. 社会の要求に対応する積極性と持続力を有する。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。

共通教育に関する DP をもって学部 DP を構成する。

カリキュラム・ポリシー (CP)

学部ディプロマ・ポリシーに掲げる学士力を備えた人材を育成するために、以下のように体系的なカリキュラムを構成します。

1. 工学基礎教育及び専門教育の教育分野においてバランスよい教育を行う。
2. 学生が、高等学校教育課程の学習から円滑に大学教育へと移行できるように、導入教育を行い、更に専門科目では一部で少人数教育を取り入れて、深い理解を図る。
3. 国際基準に対応するために、JABEE の教育目標に準拠した内容を取り入れる。
4. 技術者に求められる積極性・協調性・持続性を養成するために、技術者倫理をはじめとする多彩な教育スタイルでキャリア教育を行う。

【共通教育】

共通教育の CP に関しては別に定める。

共通教育に関する CP をもって学部 CP を構成する。

[機械工学]

ディプロマ・ポリシー (DP)

【知識・理解】

- A-1 ものづくり（機械の創造）に関する基礎学力と応用力を有している。
- A-2 健全な倫理観を支える知識と教養を機械工学と関連づけて身につけている。
- A-3 機械工学の基礎科目の習得にもとづいた工学と社会のつながりを理解する能力を備えている。

【技能】

- B-1 機械工学の知識全般を有機的に活用する能力を備えている。
- B-2 機械工学の基礎学問（材料力学、流体工学、熱工学、機械設計・工作、機械力学・制御）の基本課題を理解し解決する能力を備えている。
- B-3 論理的に記述、発表、討議できるコミュニケーション技術を有し、自分の考えを伝えて意見交換ができる。

【態度・志向性】

- C-1 社会のニーズを捉え、機械工学を活かして社会へ貢献する志向性がある。
- C-2 グローバルな視点で社会に貢献する志向性がある。
- C-3 生涯にわたって工学全般を学び続ける態度を有する。

【共通教育】

共通教育のDPに関しては別に定める。
共通教育に関するDPをもって学位（教育）プログラムDPを構成する。

カリキュラム・ポリシー (CP)

初年次から、機械工学の基礎の習得にもとづく、幅広い知識と技術を身に付けて、適切な技術者倫理をもとに、工学と社会のつながりを理解する。さらに、社会のニーズに対して機械工学の知識と技術を以て、グローバルな視点で社会に貢献する意識を養う。初年次の工学共通科目及び専門共通科目の履修では、機械工学的なセンスを養いながら、工学に関する基礎知識を修得する。学年が進むにつれて、『材料力学』、『流体工学』、『熱工学』、『機械設計・工作』及び『機械力学・制御』の主要5分野の専門教育科目が、「工業力学」、「流体工学」、「工業熱力学」、「機械工作法」及び「機械制御工学」などの基礎科目から、「機械材料学」、「流体機械」、「内燃工学」、「工作機械」、「ロボット工学」及び各分野の実験・実習科目などの応用科目へと有機的・体系的に配置されている。これらの科目において、機械工学の基礎知識や理論を修得し、基本課題を解決する能力、ものづくりに関する基礎学力を身に付ける。また、「材料力学」や「金属材料学」などの科目の学習内容を体得して、理解を深めるための「材料試験」で代表される各分野の実験・実習科目を小人数に分かれて履修し、きめ細かな教育指導を受けながら、機械工学の知識を活用することで、機械工学技術者に必要な実践的な応用力を確実に身に付ける。さらに、図学や機械製図法及び機械工学設計演習などの設計製図科目を履修することで、機械工学技術者として必要なものづくりに関する設計力と応用力を身に付け、機械工学を活かして社会に貢献することができる。4年次の卒業論文では、様々な分野の知識を総合し、論理的に分析した内容を記述、発表及び討論する過程でコミュニケーション能力を修得し、ものづくりに関する機械工学の知識全般を有機的に活用できる思考力・問題解決能力を身に付け、生涯にわたって学び続ける態度・意志を養う。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

機械工学科 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

カリキュラム・マップ

<https://fukuoka-u.box.com/s/govhwh4vhyriqm2w61ly4orehs4za9dj>



カリキュラム・ツリー

<https://fukuoka-u.box.com/s/3e604hnptqg7l3dggnaogq18nif8vvgd>



23台以前はこちらをご覧ください➡

<https://fukuoka-u.box.com/s/k4j5ea0vfm16dimdrj6wlhn2ys2nh6ec>



[電 気 工 学]

ディプロマ・ポリシー (DP)

【知識・理解】

- A - 1 数学・物理学の自然科学関係の基礎知識を持ち、電気磁気学・電気回路の概念と基本法則を理解して電氣的及び磁氣的挙動を説明できる。
- A - 2 電力機器・半導体の動作原理、使用材料、効率向上の方法を説明できる。
- A - 3 電気工学の典型的な現象に関する実験を行い、各種法則及び現象に基づき実験結果を説明できる。

【技能】

- B - 1 数学を用いて電気の典型的問題を解析できる。
- B - 2 基本的な実験装置の原理を理解して操作でき、不確かさを考慮して実験結果を定量的に分析できる。
- B - 3 実験データについて、理論的見地から整理・解釈することができ、他人との意見交換を通して、自らの考えや意見を的確に伝えることができる。

【態度・志向性】

- C - 1 問題に取り組む積極性や持続力を持っている。
- C - 2 自ら課題解決に取り組む行動力を持っている。

【共通教育】

共通教育のDPに関しては別に定める。
共通教育に関するDPをもって学位（教育）プログラムDPを構成する。

カリキュラム・ポリシー (CP)

本プログラムでは、電気に関連する基礎理論、材料、機器、計測、情報、制御、電力の各分野にわたる広範囲な知識を修得し、社会的責務を果たすことのできる技術者育成を教育の目的とし、ディプロマポリシーに掲げた能力を育成するために、以下のような教育課程を編成している。

〔教育内容〕

初年次から2年次では、電気工学修得のための基礎となる工学共通科目を配置すると同時に、専門教育科目において、電気工学諸現象を理解・説明する能力を養成するための基礎理論分野である電気入門、電気磁気学・電気回路、情報のコンピュータ基礎を配置している。また、2年次から3年次にかけて、材料分野の電気物性論、電気材料など、機器分野の電気機器、パワーエレクトロニクスなど、計測分野の電気計測、電子回路、電子工学など、情報分野の情報処理、数値解析、プログラム技法などが配置される。3年次からは、制御分野の制御工学など、電力分野の発変電工学、電力伝送工学、高電圧工学、照明電熱工学などが配置されている。一方で、2年次以降では、他人と的確に意見交換をする能力を育成し、設備関連の技能を身につけるための実験演習科目である電気基礎実験、電気工学実験などを配置しており、質の高い電気技術者として必須の電気主任技術者資格取得に対応できるプログラムを構成している。

〔教育方法〕

初年次教育の中に基礎的専門科目を導入して、演習に注力しながら高年次に必要となる専門的な知識習得を行う“くさび型教育”を採用する。基礎理論分野科目、実験演習科目、卒業論文などの科目では、少人数教育を志向し、特に卒業論文では、全教員担当指導による最新・最先端の研究テーマに取り組むことにより、創造力や問題解決能力を育成している。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

電気工学科 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

カリキュラム・マップ

<https://fukuoka-u.box.com/s/5estviow281wsrgtaqr1tdi2fbfil5jz>



カリキュラム・ツリー

<https://fukuoka-u.box.com/s/3q963evpzaq7nshu7cmlcxg8xmuhn6vg>



23台以前はこちらをご覧ください➡

<https://fukuoka-u.box.com/s/zak360ugp7qp8055mccv8wxi3xox0md2>



[電子情報工学]

ディプロマ・ポリシー (DP)

【知識・理解】

- A-1 数学と物理学を中心とする自然科学についての基礎知識を持ち、実際の問題に応用できる。
- A-2 電子工学、通信工学、情報工学を学ぶうえで必須の基礎知識を持ち、説明することができる。
- A-3 電子工学ならびに通信工学の基礎知識、または情報工学の基礎知識を理解し、説明することができる。
- A-4 電子工学、通信工学、情報工学のそれぞれを応用したシステムまたは複合的に応用したシステムの基礎知識を持ち、説明することができる。

【技能】

- B-1 社会の要求を解決する電子情報システムをデザインすることができる。
- B-2 論理的な文章の記述や発表の資料作成ができ、口頭発表により電子情報システムを説明できる技能を有する。
- B-3 与えられた制約の下で電子情報システムを構築するために計画的に仕事を進め、まとめることができる。
- B-4 チームで相互評価と相互支援を行い、計画的に目標を達成することができる。

【態度・志向性】

- C-1 電子情報技術が自然および社会に及ぼす影響や効果を理解し、情報処理技術者が社会に負っている責任を自覚している。
- C-2 文献や種々の情報媒体を利用して情報を集め、自主的、継続的に学習に取り組む意欲をもっている。

【共通教育】

共通教育のDPに関しては別に定める。

共通教育に関するDPをもって学位（教育）プログラムDPを構成する。

カリキュラム・ポリシー (CP)

- ① 自然科学の基礎知識を身に付けてもらうために、1、2年次に数学と物理などの科目を必修科目として配置します。
- ② 情報通信技術の基礎を幅広く理解するために、1、2年次に電気回路、プログラミングなどの専門基礎科目を必修科目として配置します。
- ③ 2、3年次に電子情報工学の基礎知識を身に付けるための専門科目を必修科目として、その応用システムに関する基礎知識を身に付けてもらうために、3年次に知識工学や通信応用などの選択科目を配置します。
- ④ 電子情報工学の応用システムをデザインする能力を身に付けるために、3年次に実験・演習科目を、4年次に卒業論文を配置します。
- ⑤ プレゼンテーション能力を身に付け、また計画的に仕事を進め、まとめる能力を身に付けるため、1年次に電子情報工学特論、3年次に電子情報工学特別演習、4年次に卒業論文を配置します。
- ⑥ 技術者倫理を身に付けてもらうため、必修科目である電子情報工学特論と情報職業論で技術者倫理について学習します。
- ⑦ 自主的、継続的に学習に取り組む姿勢を身に付けるため、1年次の電子情報工学特論、3年次の電子情報工学特別演習、4年次の卒業論文を配置します。

- ⑧ 4年間の各年次に配置した、電子情報工学特論、電子情報基礎演習、実験・演習科目、電子情報特別演習、卒業論文において少人数教育、グループワークを行います。
- ⑨ 1年次からプレゼンテーション・討論を行う機会を電子情報工学特論などの科目で設けています

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。

共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

電子情報工学科 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

カリキュラム・マップ

<https://fukuoka-u.box.com/s/85vntml9n96lm5f6gbfmvsdambjnzhep>



カリキュラム・ツリー

<https://fukuoka-u.box.com/s/49m4vvlbg983wd5a424p4dkts9ruo8u6>



23台以前はこちらをご覧ください➡

<https://fukuoka-u.box.com/s/ar2zgaqo13cp610cjefa6jazuw1x3wd0>



〔化学システム工学〕

ディプロマ・ポリシー (DP)

【知識・理解】

- A-1 化学工学と分子工学を構成する主要要素である物理化学、有機・無機化学、移動現象論、反応工学などの化学プロセスの基礎となる原理や技術を説明できる。
- A-2 化学プロセスにおける主要な物質の性質、および有用物質生産の基本的な原理や技術を説明できる。
- A-3 化学工学や分子工学の基となる自然科学の原理原則の知識をもち、化学工学や分子工学と社会との関わりについて理解している。

【技能】

- B-1 化学工学と分子工学において広く用いられる器具や装置を正しく操作できる。
- B-2 化学プロセスに関わる基礎的な現象を、実験や数値計算により解析できる。
- B-3 自分の意見を明確に表現し、他者と建設的な意見交換をおこなうことができる。

【態度・志向性】

- C-1 自分から積極的に課題解決に取り組もうとする主体性をもつ。
- C-2 他者と協力しながら課題解決に取り組もうとする協調性をもつ。
- C-3 化学技術者として、関連分野の国際的動向や社会的意義に関心をもち、健全な倫理観に基づいて、課題解決に取り組もうとする。

【共通教育】

- 共通教育のDPに関しては別に定める。
- 共通教育に関するDPをもって学位（教育）プログラムDPを構成する。

カリキュラム・ポリシー (CP)

化学システム工学プログラムでは、「化学工学コース」と「分子工学コース」の2つのコースが設置され、化学技術・環境技術に関連する広い分野で活躍できる柔軟な思考力と総合力を兼ね備えた技術者および指導者を養成することを目的としたカリキュラムが編成されている。

低学年において、数学と物理学の工学基礎や、物理化学、無機化学、有機化学、分析化学などの化学プロセスの基礎を習得する。化学技術に関する実験科目、演習科目に取り組み、器具や装置を正しく操作する技能や、他者と建設的な意見交換を行うことができる能力を育む。化学プロセスに関わる基礎的な現象を、物理化学、反応工学、流体工学などに基づいて、実験や数値計算により解析する能力を育む。2年次より、「化学工学コース」または「分子工学コース」のコースに所属し、化学工学、分子工学分野の幅広い専門科目により、化学プロセスにおける主要な物質の性質、および有用物質生産の基本的な原理や技術を習得する。技術者倫理や安全・安心など人文・社会科学に密接した科目群により、幅広い知識と理解を習得し、健全な倫理観や社会性を養う。

国際的な協調性、コミュニケーション能力を養うため、アクティブラーニング形式の科目を設け、外国語による科学技術の理解力やプレゼンテーション能力を高める。4年次には卒業研究を課し、研究室で未知なる現象の解明や課題解決を主体的に行うことで化学技術者または指導者として社会の発展に貢献する人材を養成する。また、化学工学、分子工学の高度な専門的知識の習得と同時に、大学を卒業した社会人として活躍するための幅広い教養を育む。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

化学システム工学科 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

カリキュラム・マップ

<https://fukuoka-u.box.com/s/s1r3fqk9tuu1emiy9fkv8j5qxiyscmag>



カリキュラム・ツリー

<https://fukuoka-u.box.com/s/x7yw2zpurxpvq9lbwmumb3ifin1lv4w3>



23台以前はこちらをご覧ください➡

<https://fukuoka-u.box.com/s/2tq6a8bo3c4o6qooe4h57ijj2203bqz6>



〔社会デザイン工学〕

ディプロマ・ポリシー (DP)

【知識・理解】

- A-1 建設工学の構造系、水理系、地盤系、計画系、材料・施工系、環境系のうち三分野以上に関する専門的な知識を持つ。
- A-2 応用数学、物理または化学、情報技術に関する知識を持つ。

【技能】

- B-1 応用数学、物理または化学、情報技術を修得し、それらを建設工学の学習ならびに問題解決へ応用することができる。
- B-2 実現可能な解をデザインし実行するために必要不可欠な、市民を含む多様な関係者との間の円滑なコミュニケーションを行うことができる。また、国際的コミュニケーションの基礎能力を有する。
- B-3 建設工学の専門的な知識を、建設分野の基本的問題の解決に応用することができる。

【態度・志向性】

- C-1 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を十分に理解し、技術者としての責任感と倫理観を持つ。
- C-2 建設工学を支える基礎科目と専門科目の知識を活用して、社会の要求に対する実現可能な解を見出すことのできるデザイン能力を持つ。
- C-3 社会の変化、要求に柔軟に対応する自立した技術者として常に成長できるよう、自主的かつ継続的に学習を続ける習慣を持つ。
- C-4 環境保全、経済合理性、自然との調和が課題となる九州の地域特性などの種々の制約条件の下で、自立した一人の技術者、チーム力を有する技術者、さらには建設プロジェクトのリーダーとして、仕事をやり遂げる姿勢を持つ。
- C-5 社会・経済の環境変化に注意を払い自らの仕事を客観的に評価し必要に応じて柔軟に軌道修正できるPDCAサイクルを実践する姿勢を持つ。
- C-6 地球規模で幅広く考え、自然との調和が課題となる九州という地域に根ざしてグローバルに物事を考える姿勢を持つ。

【共通教育】

共通教育のDPに関しては別に定める。

共通教育に関するDPをもって学位（教育）プログラムDPを構成する。

カリキュラム・ポリシー (CP)

社会デザイン工学の学位プログラムは、長年に渡り土木業界で活躍する人材を送り出してきた自覚と責任の下に、今後もこの分野で確固たる地位を築ける人材を養成することを目的としたカリキュラムを提供しています。すなわち、専門教育の基礎となる工学共通科目にはじまり、土木に関する専門知識を学ぶ講義科目、発展的な知識を習得する応用科目を開講しています。まず1年次では、数学系科目、物理系科目などの基礎科目が設けられており、専門教育科目を学んでいくために必要となる知識を修得していきます。そして2・3年次では、専門教育科目を中心とした学修へと展開し、構造系、水理系、地盤系、計画系、材料・施工系、環境系の6分野を体系的に学んでいきます。また3年次では、より高度な専門知識を学べる専門の選択科目が用意されており、積極的に学ぶ意欲のある学生に応えることができるようなカリキュラムになっています。最後に4年次では、これまでに学んだ専門知識を活かし、学修の総括として卒業論文に取り組みます。そしてこのカリキュラムでは、通常の講義科目に加えての実験・実習科目、複数の教

員による分野横断的な共担科目も組み込まれており、専門知識を応用していくとともに、専門が多岐にわたる土木分野において必須となる多面的な視野を養うなど、専門的な知識の習得のみならず実践的な土木技術者を養成するための教育を行います。「グローバル能力の修得」、「責任感・倫理観の育成」、「工学の基礎的知識の修得」、「専門知識の修得」、「デザイン能力の修得」、「コミュニケーション能力の修得」、「自主・維持学習能力の修得」、「目的完遂能力の修得」、「柔軟対応能力の修得」を目標に掲げ、本プログラムでの学習を通じてディプロマ・ポリシーの達成が可能となるカリキュラムになっています。

【共通教育】

共通教育の CP に関しては別に定める。

共通教育に関する CP をもって学位（教育）プログラム CP を構成する。

社会デザイン工学科 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

カリキュラム・マップ

<https://fukuoka-u.box.com/s/h9zv513zp8itk6onrs19h47uhq3c7s8n>



カリキュラム・ツリー

<https://fukuoka-u.box.com/s/t6a0mq4bhkwnw3mcqmurwbwlmwnmaxo>



23台以前はこちらをご覧ください➡

<https://fukuoka-u.box.com/s/z1lmyqt766wmtwev3pq7avy0k6yack9>



[建築学]

ディプロマ・ポリシー (DP)

【知識・理解】

- A-1 工学技術の基礎となる数学や自然科学、情報処理の知識を身につけ、建築学の理解に活かすことができる。
- A-2 建築学と文科系学問との間に深い結びつきがあることを理解し、建築を社会・文化・芸術などとの関連で考えることができる。
- A-3 材料・施工、建築構造、環境設備、建築・都市計画、歴史・意匠などの各分野において体系的な知識を身につけ、基礎的な理論を説明できる。

【技能】

- B-1 建築における専門的な分野(材料・施工、建築構造、環境設備、建築・都市計画、歴史・意匠)の知識を理解し、実際の建築にあてはめて説明することができる。
- B-2 建築における専門的な分野(材料・施工、建築構造、環境設備、建築・都市計画、歴史・意匠)の知識を複合的に応用し、現実の建築に関する問題を考えることができる。
- B-3 建築に関連する問題を発見し、それを解決するための作業計画を立案することができる。
- B-4 自分の立案した作業計画にしたがい、学習・調査・実験・制作など必要な活動を効率よく制御し、計画的に推進することができる。

【態度・志向性】

- C-1 建築技術者として、地球環境問題を意識するとともに、地域の伝統的な風土・景観・文化等の特性を生かして建築を考える意識をもっている。
- C-2 社会における建築技術者の役割を的確に認識した上で、建築技術者としての倫理感と責任感を持って、自分の職務に自律的かつ継続的に取り組む意志をもっている。
- C-3 建築技術者として求められる他者との協働において、自己のなすべき行動を的確に判断・実行し、かつ協働する他者の取るべき行動を判断し働きかける意志をもっている。

【共通教育】

共通教育のDPに関しては別に定める。

共通教育に関するDPをもって学位(教育)プログラムDPを構成する。

カリキュラム・ポリシー (CP)

本プログラムでは建築技術者として十分な基礎学力、高度で実践的な専門性、調和のとれた教養を身につけた、社会において指導力を発揮し幅広く活躍・貢献できる人材を、地域と連携して育成することを教育の目的としている。これに即した、プログラムのディプロマポリシーに掲げた能力を育成するため、以下の特色を持つ教育課程を編成している。

【教育内容】

工学技術の基礎となる数学・自然科学の知識、建築学と関連する文科系学問の基礎教養、建築における基礎的な知識を、それぞれ工学共通科目、専門科目を通して学習する。そして現実の問題を解決するための応用力を、構造・材料、歴史・意匠、計画・設計、環境の四分野に体系化し、初歩から実践まで段階的に養成する。さらに作業計画を立案・遂行する能力を、入学直後から継続的に開講される設計・演習・実習・実験の各科目と卒業計画を通して育成する。

【教育方法】

1-2年次に基礎的な内容の科目を重点的に配置し、基礎学力の充実をはかる。3年進級時のコースわ

け以後は、学生の選択した分野の科目を集中的に受講させ、高度な専門性を獲得させる。このとき実習・演習科目において、入学直後から一貫して一人ひとりに対一の丁寧な指導を徹底しておこなう。また外部、特に福岡周辺で活躍している実務家教員を積極的に招聘し地域の実際に即した教育をおこなう。卒業研究では最先端の研究テーマに複数の教員の指導の下で取り組み、周囲と協働して研究を推進する力を薫陶する。加えて4年間を通し、学生に教員が対面で修学や生活の相談に乗るアドバイザー制度を実施する。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。

共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

建築学科 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

カリキュラム・マップ

<https://fukuoka-u.box.com/s/a0eezo7s6qbavz4d99m88s2dlqkg21xl>



カリキュラム・ツリー

<https://fukuoka-u.box.com/s/amaxjhx3dg9a9t8an4hyjl0tzam9aud1>



23台以前はこちらをご覧ください➡

<https://fukuoka-u.box.com/s/g91tsq0s3eh2fuyfn2blhf8i0u1v3fx5>

